

ふたじま

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語,算数,理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

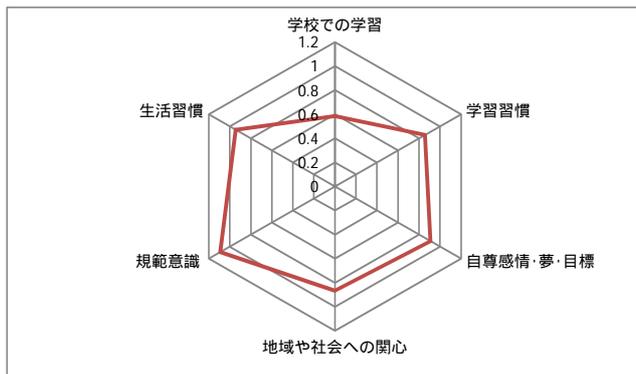
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	「読む」ことによって、登場人物の心情を読み取ったり、必要な情報をつかみ取ったりすることを苦手としています。漢字は、問題によって正答率が分かれます。日常的に使ったり、目に触れたりする問題はよく書けていますが、そうでない問題の正答率は低い傾向です。	下回っています。
国語B	活用問題に関しては、「読む」課題の正答率は低い傾向です。目的に応じて内容を読み取ることの正答率が低い傾向です。回答の方法として、選択式と記述式では、選択制の正答率が高いです。	下回っています。
算数A	「数と計算」の領域では、少数の入った割り算や単位量当たりの計算の問題の正答率が低いです。また、折れ線グラフの読み取りに課題がありました。	下回っています。
算数B	「グラフを読み取る問題」や「情報を解釈する問題」の無回答率は高いです。基本的な数量関係の知識・理解が不十分さがあります。特に図形の課題は正答率が低いです。	下回っています。
理科	全体的に無回答率が低く、最後まで粘り強く問題に取り組んでいます。水の働きなどの自然事象の知識・理解を問う課題の正答率が低いです。	下回っています。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



宿題を行うことは、比較的できていますが、宿題以外の学習に取り組んだり、計画的に学習に取り組んだりといった、主体的に学習に取り組む姿勢に課題があります。家庭での過ごし方もゲームやインターネットを行っている子どもが多く、家庭学習の時間が短い傾向にあります。認められる経験が少なく、自尊感情の低さがうかがえます。そのため、社会に役立つ人になりたい、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるなどの肯定的回答は全国平均に比べると低い傾向が見られます。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎基本をしっかりと身につけさせていく必要があります。そのためには、各担任が授業改善を図り、児童がわかる授業を行うようにしていかなければなりません。普段の授業を充実させ、めあて、まとめ、振り返りを確実にすることや書く活動、話し合う活動など主体的な学習を通して、着実に学力を身につけさせていくことが重要です。視覚的支援や集中がしやすい環境づくりに努め、子どもたちが学習しやすい学校・学級にしていきます。そのために、今後とも、教職員が協力して子どもたちのために取り組んでいきます。

家庭生活習慣等に関する取組

宿題などの与えられた課題は行っていますが、主体的に学習に取り組む姿勢に課題があります。保護者の方も子どものノートや教科書を見て、今、どんな学習をしているのだろう、ちゃんと理解しているかななど関心を持って子どもたちと関わっていただけるとよいと思います。日常的に、「ありがとう。」「頑張ったね。」「よくできているよ。」など、肯定的な言葉かけを行うことで、自尊感情が高まり、社会へ対して目を向けることができる子どもへ育ってくれます。